



のびのび若っ子

すうっと手をあてて、くつをそろえる

校長 池田 千穂

着任してから1か月が過ぎました。銀杏や桜の若葉が美しく日差しを浴びてキラキラ輝いています。この1か月、若っ子の素敵なところを日々発見していますが、1番はあいさつがしっかりとできるところです。朝、校門であいさつをしていると多くの子ども達から「おはようございます」という声が返ってきます。私と目を合わせて笑顔を返してくれる子もいます。そろそろ気恥ずかしい年頃になる高学年が立派に挨拶する姿も多く、素晴らしいと思います。見守りの地域の方が「ずいぶん子ども達があいさつしてくれるようになった」と仰られていました。若っ子達のあいさつはご家庭と地域の皆様とで育てきた素敵な子ども達の姿だと思いました。

教育哲学者の森信三さんが3つのしつけとして「あいさつ」「返事」「はきもの」を提唱しています。一つ目の「あいさつ」では「自分からすること」も大切だと言っています。確かに、先にあいさつされると気持ちがいいものです。あいさつの大切さは私もこの1か月で実感しています。あいさつを返されると、子ども達と少し仲良くなったようで嬉しくなります。



名前をよばれたら「はい!」と、はっきり返事ができる。

二つ目は「返事」です。本校では「学習スタンダード」で全学年に「名前をよばれたら、はい!とはっきり返事ができる」という指導をしています。1年生の教室に行くと、すでに、「お名前を呼ばれたら、はいってお返事するんだよね。」と担任が指導していました。「はい」と返事をするのは相手からの投げかけを受け止めたということです。あいさつも返事も人と人をつなぐ大切な手立てなのだと思います。



三つ目の「はきもの」ですが、森さんは「出した椅子は机にしまい、はきものはそろえる」と言っています。「はきものをそろえる」ことは本校でも子ども達に声をかけています。5年生の教室に「はきものをそろえる」という詩が掲示してありました。この詩は「脚下照顧」の教を長野県円福寺の藤本幸邦住職が子ども達に伝えるためにわかりやすくしたものです。朝会で児童支援専任も、上手にそろえられた靴箱の写真を紹介しました。以前、靴をそろえて靴箱に入れる時「かかとを持って靴箱に入れたら、靴箱からはみ出したところをすうっと片手の手のひらで押ししてしまう。」と指導している先生がいました。私はこの「すうっ」が大切だと思いました。もともと脚下照顧の教は「足元を照らして顧みよ」という意味です。はきものをそろえることで、心も落ち着いて、自分の行いを振り返る、自分自身を見つめることにつながるということです。手のひらをすうっと靴に当てる事はそんな時間に自分自身を導いてくれる気がします。子ども達が下校時、自分の上履きに『すうっと』手を当てた時、「学校楽しかったな。明日も楽しみだな。」と思えるような学校にしていきたいと思っています。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にすることを育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』